

課題名：自己免疫性膵炎の acinar-ductal metaplasia と
膵管癌の鑑別における免疫染色の有用性の検討

◆研究の目的と概要◆

当院では、EUS-FNA という検査で採取された組織検体を用いて、1型自己免疫性膵炎にみられる acinar-ductal metaplasia と呼ばれる反応性変化と、膵癌（膵管癌）を正しく鑑別できるように、免疫染色を用いた鑑別方法を調べています。本研究では、正しい病理診断を目指し、適切な治療につなげていくことを目的としています。本研究は、倉敷中央病院を主体として実施されます。

◆対象となる患者さん◆

2018年1月から2024年12月までに EUS-FNA が行われ、膵癌、あるいは自己免疫性膵炎（1型、2型）や腫瘍形成性膵炎などの非腫瘍性疾患と診断された患者さん

◆研究に使用される情報・試料◆

EUS-FNA にて膵癌、あるいは自己免疫性膵炎（1型、2型）や腫瘍形成性膵炎などの非腫瘍性疾患と診断された病理組織の残余検体を用います。また、患者さんの年齢、性別、病変の部位に加えて、EUS-FNA の手技、病理学的な判定結果、診断に必要となる画像データの報告書（CT, MRI, 膵管造影, MRCP）、血清 IgG4 値、他臓器病変の有無・部位、ステロイドによる治療が行われている場合にはその反応性、臨床経過（膵癌か否かの確認）を調べて、必要な情報を調査票に記入します。試料、データは本研究の主体である倉敷中央病院に送られて保管され、研究を行います。

◆予定する研究実施期間◆

本研究の研究主体での倫理審査承認日（2026年1月9日）から2028年3月まで

◆試料・情報の研究利用開始日◆

2026年1月9日以降

◆研究方法◆

組織標本を用いて免疫染色を行い、1型自己免疫性膵炎の acinar-ductal metaplasia と膵管癌の違いを研究します。鑑別に有用なマーカーを提唱することを目標としています。

* 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は

利用しません。

- * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、
以下にご連絡ください。

【問い合わせ先】

横浜市立大学附属病院

内視鏡センター 研究責任者 窪田賢輔

電話 045-787-2800 (病院代表)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、倉敷中央病院の医の倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※ 【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- ・研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
(他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。)
- ・研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- ・研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- ・研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明

【本研究の研究体制】

研究代表者 :

倉敷中央病院 病理診断科 能登原 憲司

共同研究機関（責任者）:

金沢医科大学血液免疫内科学 川野 充弘

長崎国際大学 中村 誠司 東北大学大学院医学系研究科 消化器病態学分野 正宗 淳

東京女子医科大学附属八千代医療センター 内視鏡科 西野 隆義

信州大学医学部 病態解析診断学 上原 剛

東京女子医科大学 消化器内科 高山 敬子

慶應義塾大学医学部 内科学（消化器） 堀部 昌靖

札幌医科大学 消化器内科 桝木 喜晴

横浜市立大学附属病院 内視鏡センター 窪田 賢輔

名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学 吉田 道弘

金沢医療センター 病理診断科 川島 篤弘

京都大学大学院医学研究科 消化器内科学講座 塩川 雅広

関西医科大学内科学第三講座 池浦 司

東海大学医学部医学科内科学系消化器内科 岩崎 栄典

※本研究は、厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業「オールジャパン体制による IgG4 関連疾患の診断基準並びに治療指針の確立を目指す研究」班ならびに日本臓学会臓炎調査委員会自己免疫性臓炎分科会が協力して行います。